

下京雅学校だより

~SHIMOGYO-MIYABI News Letter~

学校評価特集

子どもを共に育む
京都市民憲章



社会のあらゆる場で実践し、
行動の輪を広げましょう！



平成 29 年 10 月

京都市立下京雅小学校

平素は、本校教育にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、7月に実施いたしました平成29年度前期学校評価アンケートの結果についてお知らせいたします。保護者の皆様には、お忙しい中、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。保護者の皆様と児童と教職員が共通の質問項目でアンケートをとり、その実現度を比較しました。学校評価の結果を真摯に受け止め、よりよい下京雅教育の在り方を探り、今後に生かしていきたいと考えております。

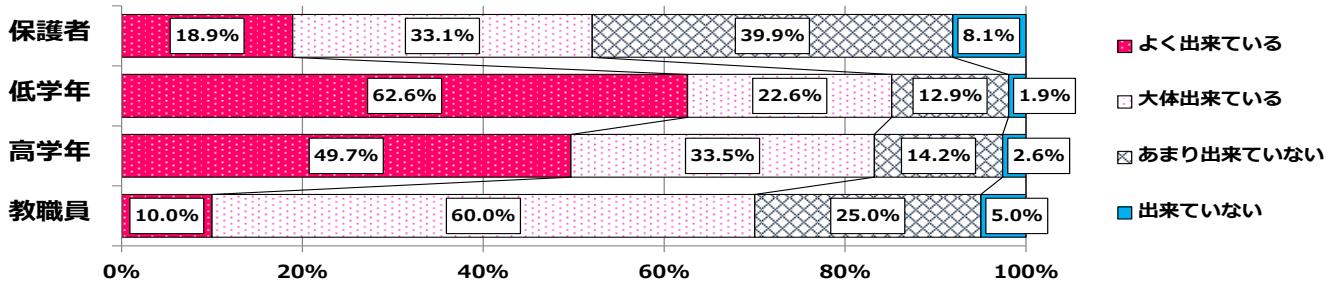
【アンケート集計結果】(実現度の値は、解答の平均値を1.0~4.0のスコアで表示したものです。)

	質問項目 ※ () は児童用の質問 児童アンケートには「子どもは」「家庭では」という主語はありません。	実現度 (4.0に近いほど実現できていると考えられます)				分析・考察
		保護者	低学年	高学年	教職員	
確かな学力	子どもは、学校の授業がわかっている。 (学校の授業はよくわかる)	3.2	3.6	3.5	3.2	低学年児童はすべての項目について3.5以上の高い実現度であったのに対し、高学年児童、保護者、教職員は3.0前後の低い実現度でした。特に、「読書の習慣」という質問に対しては、保護者と教職員ともに低い実現度であり、読書離れが進んでいるように感じました。学校での朝読書が、家庭での読書生活につながるように取り組んでいくことが必要だと考えています。
	子どもは、めあてをもってあきらめずに学習に取り組んでいる。	3.1	3.7	3.3	3.3	
	家庭では、毎日、計画的に継続して家庭学習ができるような環境を整えている。	2.9	3.7	3.1	3.3	
	子どもが人の話をしっかり聞けるように、家庭でも話をしっかり聞いている。	2.9	3.5	3.3	3.2	
	子どもが、自分の考えをきちんと言えるよう子の言葉を待つようにしている。	2.9	3.5	3.1	3.4	
	家庭でも、読書の習慣が身につくように工夫している。(たくさん本を読んでいる)	2.6	3.5	3.3	2.3	
豊かな心	子どもは、楽しく学校に通っている。 (学校にくるのが楽しい)	3.5	3.7	3.5	3.5	「楽しく学校に通っている」という質問に対して、児童・保護者・教職員が3.5以上の高い実現度であったことは喜ばしい結果です。その反面、「あいさつ」「言葉遣い」に対しての保護者・教職員の実現度は低い結果でした。校内の取組はもちろん、家庭、地域が手を取り合って、子どもたちの規範意識や社会性の向上に全力を挙げて取り組んでいきたいと考えています。
	家庭では、お互いの良さを認め合い、自分もまわりの人も大切にできるようにしている。	3.2	3.8	3.6	3.3	
	家庭では、家族のルールや、社会のルールを守ることの大切さを確認している。	3.3	3.7	3.4	3.0	
	家庭では、あいさつを大切にし、自分から進んであいさつができるようにしている。	3.1	3.6	3.3	2.6	
	家庭では、時と場合を考えた、ていねいな言葉遣いを心がけている。	2.9	3.5	3.2	2.6	
	友達や家族、兄弟姉妹に思いやりの気持ちでかかわることを大切にしている。	3.1	3.7	3.2	3.1	
健やかな体	家庭では、早寝早起き朝ごはんなどの生活習慣が身につくように心がけている。	3.2	3.4	3.2	2.8	「安全に生活」という質問に対する実現度が高いことは、うれしい結果です。この結果には、登下校時の見守りが大きく影響しており、感謝しております。また、児童の「外遊び」での高い実現度には、ジャンプアップの取組が関係していると考えています。
	子どもたちが安全を意識して生活できるように働きかけている。(安全に注意して生活している)	3.3	3.8	3.7	3.3	
	家庭では、外に出て遊び、よく体を動かすように声かけをしている。(よく体を動かしている)	3.0	3.5	3.5	2.6	
	家庭では、好き嫌いなく食事ができるように意識や工夫をしている。	3.1	3.5	3.3	2.8	
家庭・学校・地域との連携	学校は、ホームページや学校だより、学級の学習予定表などで学校の様子を分かりやすく伝えている。	3.3			2.9	下校時の見守り活動をはじめ、あらゆる場面で家庭や地域の方々の多くのご協力をいただいていることに感謝しています。学校は家庭・地域の皆様と連携して子どもたちの成長に全力を注いでいきます。そのためにも、これまで以上に情報公開を行い、開かれた学校づくりを進めていきたいです。
	家庭では、配布物やホームページなど、学校からの情報を確認している。	3.2			2.6	
	学校と家庭が子どものことについて、遠慮なく相談できる。	3.0			2.6	
	見守り活動など、「地域ぐるみ」で子どもを育てようとしている。	3.1			3.1	
	「ありがとう」と感謝の言葉が素直に言えるようなかかわりをしている。	3.2			3.3	

ご協力ありがとうございました。後期学校評価アンケートもよろしくお願ひいたします。

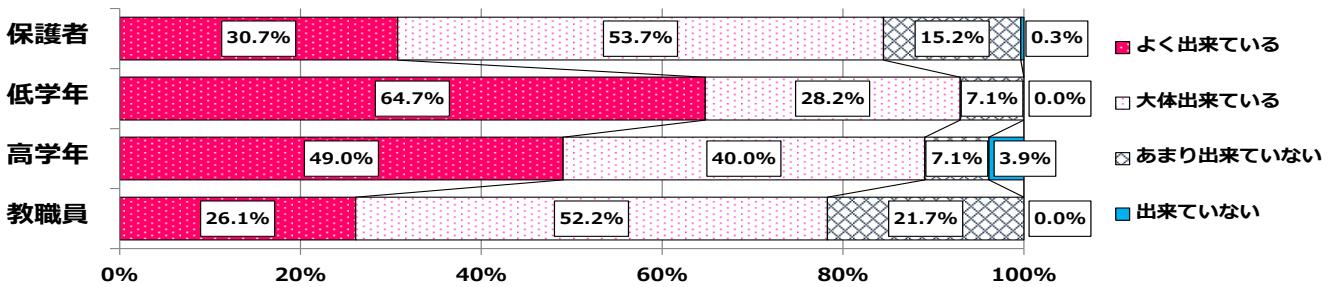
【特徴的な項目での分析・考察】(三つの重点「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の三つの重点から一つ)

【確かな学力】家庭でも、読書の習慣が身につくように工夫している。(たくさん本を読んでいる)



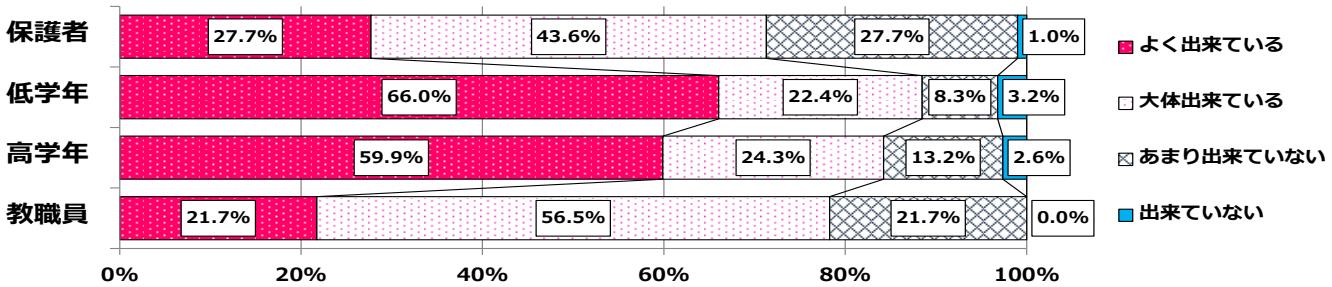
「よく出来ている」と回答した低学年児童は62.6%，高学年児童は49.7%という割合でした。低学年児童の半数以上が、たくさん本を読んでいることが分かります。国語科の授業を中心に学校図書館を活用して読書活動の機会を多く持つことができるのが低学年であることから、このような結果となったのではないかと推測されます。近年、子どもたちを取り巻く社会の情報化は目覚ましく、「活字離れ」が進んでいることが問題とされています。子どもたちの周りにもICT機器があふれ、読書に向かう意欲が高まりにくい社会となっています。このような高度情報化社会では、知識を詰め込んでいくだけでは対応できず、自分自身で深くものを考える必要があります。そこで、読書がより一層必要になり、「自ら本に手を伸ばす子どもを育てる」ことが切実に求められています。学校においては、学校図書館の活用を推進したり、家庭学習や自主学習などに読書を取り入れたりしたいと考えています。

【豊かな心】家庭では、あいさつを大切にし、自分から進んであいさつができるようにしている。(自分からあいさつをしている)



「よく出来ている」と回答した低学年児童と高学年児童が約50%以上いるのに対し、保護者や教職員は30%以下と低い割合でした。また、「あまり出来ていない」と回答した割合においても、児童と保護者・教職員との差が大きく、児童に比べて、保護者・教職員は子どもたちのあいさつがあまり出来ていないと感じています。あいさつをすることは、社会のマナーの一つであり、人の関わりの第一歩として、小学校期に是非とも身に付けておきたいことです。地域や保護者の方々の登下校の見守りでのあいさつ、学校で友達とのあいさつ、教職員とのあいさつなど、様々な人たちに様々な場面であいさつをする機会があります。その機会を大切に、じっくりと子どもたちにあいさつの良さや必要性を実感できるようにしたいです。

【健やかな体】家庭では、外に出て遊び、よく体を動かすように声かけをしている。(外遊びなどでよく体を動かしている)



「よく出来ている」「大体出来ている」と回答した児童と教職員が85%以上の高い割合であったのに対し、保護者は70%と少し低い割合であった。この結果から、今年度当初より取り組んでいる、朝の「ジャンプアップタイム」がよい影響を与えるのではないかと推測しています。週に3回、全校児童が体を動かす機会があり、どの児童も楽しく遊ぶ姿があります。ジャンプアップタイムで楽しく遊ぶ経験を積んだ子どもたちは、自然と休み時間も外で体を動かす機会が増えています。下京雅の地域には子どもたちが体を動かして遊ぶことができる公園が少いこともあるので、できるだけ学校が子どもたちの「遊び場」としての機能を果たせるよう、取組を進めていきたいと考えています。

学校運営協議会の方々のご意見 (多くの意見をいたしました)

低い自己評価を付けた児童に目を向け、支援していくことも大切ですね。

下京雅小学校で、読み聞かせの取組を始めてもいいですね。

授業中の声がとてもよい。朝のあいさつもどんどんできるようになっています。後期はもっとよい評価になるのではないかと想う。

統合して、休みの日に子どもたち同士で遊ぶことが減っているのではないかと心配しています。家が遠くなつたので仕方がないかとは思いますが…。

登校班のリーダーがあいさつをするようになると、つられてどんどん自分からあいさつをするようになりました。

これらの結果を、後期からの下京雅教育推進に生かしていきたいと思います。